平成 23 年 5 月 21 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 23 年　第 4 回講話

普代村の堤防

今日ご紹介する本は、木内信胤先生のご子息で、中斎塾フォーラム顧問の木内孝さんの『お早うございます。木内です』という本です。木内さんが三菱電機のアメリカとカナダの会長をされておられた時に、ラジオの広告をすることになって、普通の広告ではつまらないということで、ご自分がラジオに出られて色々な話をされた。それを本にしたものです。

もう一つご紹介するのは、岩手県普代村の広報誌です。東日本大震災では津波でほとんどの堤防が決壊して、市や町や村の中に津波が入って瓦礫の山を築いた。人も沢山亡くなりました。この普代村だけは唯一、堤防が機能しました。15.5 メートルの防潮堤です。その近くにある田老村の防潮堤はマスコミにもよく取り上げられていましたが、10 メートルの防潮堤でしたから、田老村は滅茶苦茶にやられました。

普代村がなぜこんなに大きな堤防を作ったかというと、「昔 15 メートルの津波が来たから、それ以上の防潮堤でなければならない」という古老の言い伝えがあって、当時の村長さんがそれを守り、周りの猛反対を押し切って 15.5 メートルの防潮堤と水門を作ったのだそうです。防潮堤のおかげで民家は全く流されていないし、死者も出ていません。

私は先月、1 週間かけて被災地をずっと回って参りました。普代村にも行きました。全く被災していないのかと思っていましたら、やはり被災していました。防潮堤の前が漁港ですから、置いてある船や漁業施設は滅茶苦茶にやられていました。広報誌を見ると、「激浪、漁港は壊滅」とあって、写真も載っています。普代村の人たちは大変な被害を受けたと感じていて、役場の人に「堤防のお陰で家も人も流されずによかったですね」と話しかけたところ、「ええ、有難うございます」と軽い返事でした。堤防は津波を撃退して当たり前で、それよりも漁港が壊滅したというところばかりに目が向いて、防潮堤の素晴らしさはあまり話題にはならなかった。人間とは何か不幸が襲いかかると、そればかり目がいって全体を眺めないのだなと感じました。

恒例の質問

3 月 11 日東日本大震災以降、今日まででお考え下さい。

○　震災以降、嘘をほとんどつかなかった方？

○　震災以降、良い一日がずっと続いていると思う方？

この質問は、比較してはいけません。普代村の人に「津波を撃退して、誰も死なずによかったですね」と聞くと、「とんでもない。漁港は壊滅です。何と我々は不幸なのだろう」となる。比較するからです。自分を幸せにするのも不幸せにするのも、自分の心の持ち方次第だと思って戴くとよろしい。

○　有難うと言い、有難うと言われる日々が続いている方？

○　それから 3 月 11 日以降、被災地に行かれた方はどれくらいおられますか？

3 名おられます。後ほど体験談をお話戴きたいと思います。

被災地を回って

先月、被災地を 1 週間ほどかけて回ってきました。最初に、北関東横断道路でひたちなか市、那珂湊の魚市場に行きました。テレビで見ると、ここも津波がどんどん押し寄せて瓦礫の山になっている映像がありましたので、どうなっているかと思っていましたが、かなり再開出来ていて驚きました。話を聞くと、自分達の力で瓦礫を取り除いて何とか市場を再開することが出来た。お客さんに来てもらおうという未来に向けての希望が明確であったから、どんどん復旧しているんだなと思いました。

那珂湊～東海村～鵜の岬～いわき市へ行きました。東海村は被害があるようには見えませんでした。鵜の岬もまあまあ片付いていました。日本で一番予約の取りにくい人気の国民宿舎があるということで行ってみましたら、温泉が枯渇してしまっていて、水道水を沸かして被災者に無償で風呂を提供していました。

今回は福島には行きませんでした。政府の発表はどこまで事実を言っているのか、特に原発に関しては嘘だらけだと思っていますから、避けました。福島県を避けて、高速道路で郡山から仙台、多賀城市に行きました。多賀城は津波が川を逆流して町の中に入り、町の中まで瓦礫の山がありました。多賀城という所は昔、都から見て野蛮人の住む夷の国への入り口となっていた要衝ですので、少し違った思い入れがあるのですが、以前も同じようなことがあったそうなので、経験が活かされていないことに残念でなりませんでした。

次に塩釜～松島～石巻～女川～浦宿と参りましたが、ここらへんはテレビで見るような

酷い状況でした。

次いで、気仙沼～陸前高田～大船渡～釜石とリアス式海岸を北上しました。通行不能の箇所が至るところにありました。瓦礫の山の中に自衛隊の人たちが仮設道路を作ってくれたので、何とか走れるようになっていました。もちろんナビも使えません。私は新潟の地震の時も阪神淡路大震災の後も現地に行って写真を映したのですが、今回は写真がとれませんでした。瓦礫の山の中にどれだけの人が埋まっているのだろうと思うと、シャッターは切れませんでした。テレビでは映せない映像があるなと実感しました。私が見ている中でも、かなりの自衛隊の人たちが瓦礫の中で遺体探しをしていました。これは精神的にも大変な作業だと感じました。

今お話した市町村の役場には、ほとんど行ってみました。全部、災害対策本部が立ち上がっていて、それなりの対応をしていました。ただ、組織がきちんと機能するかはトップ次第だとつくづく感じました。トップがきちんとリーダーシップを発揮していると思えるようなところは、災害対策本部がきちんと機能していて、届いた援助物資をきちんと仕分けして必要な人に必要なものを渡すという流れが出来ていました。そうでないところは、むやみやたらに不必要な物資が積まれていて、手が付けられていない。最近は不要の支援物資が山のように積まれていて、業者に頼んで買い取ってもらい、それを又、義援金に換えているという話もあるようです。対応が悪すぎますから、今回の支援物資のミスマッチは相当な数になると思います。

先週の東京フォーラムで大野参与が話をしてくれました。以前もお話しましたが、大野参与は厚生労働省から頼まれて、防護マスク 100 万枚を用意して待機していたけれども、いっこうに連絡がなくて運べなかった。そこで大野参与は岩手県に連絡して防護マスクを提供する意向を伝えたところ、「是非、お願いします」という返事だったにもかかわらず、それも宙に浮いてしまった。どこへ運んで欲しいという連絡が来ないのです。最近になってやっと分かったのは、岩手県は小沢さんの地元ですから、どうも政治家の足の引っ張り合いがあって、ことが進まなかったようです。厚労省の人が官邸に問い合わせをすると、担当部局で話が止まってしまい、店ざらしの状態で返事が来ない。政治主導ですから、官僚が“こんなものを挙げて、怒られてはかなわない”と思って止めてしまうのです。似たような話は沢山あるようです。官邸に色々な判断を求める問い合わせは沢山あったけれども、肝心な首相が原発にかかりきりで、まるで聞く耳を持たなかったので遅れているのだという新聞報道もかなりあります。その裏には、どうも政治家同志の足の引っ張り合いが

見え隠れしていますし、官僚の自己保身で出しそびれているものもあるようです。日本の政府は実に情けないと感じた部分です。

逆に、市町村が自発的に考えて行動したものは、かなり良いことをしていると思います。遠野市は、「我々が被災した市町村の情報を受信し発信しなければならない、その為の基地である」と考えて、色々な情報を集積、仕分けし、そして実行した。情報の収集・発信・指令の基地になった遠野市は、そこのトップがそうしようと思ったからやったわけです。このように自治体が自分の意思・判断でお互いに情報交換し、お互いに協定を結んで助け合いをするという動きが非常に多かった。今回の地震で評価できる部分です。

義援金・寄付金・支援金

今現在、義援金がかなり集まっていますが、まだ被災者の手元に届かない凄まじい額の義援金が残っています。

寄付には、義援金と寄付金と支援金があります。義援金は赤十字を通して被災者に直接届くお金です。寄付金は各都道府県に入って、そこで使い道が判断される。支援金は、ボランティアを現地に送って活動しているＮＰＯの団体等に入って、その活動費に当てるのが圧倒的のようです。自分が出すお金が義援金なのか、寄付金なのか、支援金なのか意識していた方がよいと思います。ちなみに私、被災した自治体にふるさと納税という形で寄付をしようと手続きをとりました。

先ほどお話した大野参与は結局、国も県も埒が明かないので直接市町村に連絡をしたそうです。原発事故で困っている双葉町に連絡をして、人口分の防護マスクと防護服を持っていく約束をして、他に甘いものが欲しいということでデパートで買い集めてダンボールいっぱいの和菓子を持っていったそうです。行ってみると、双葉町の中はゴーストタウンのように静まり返って誰も通っていない。役場に行くと、職員はしょぼんと下を向いていて何もしていない。「マスクと防護服をお持ちしました」と声をかけても、まるで覇気のない返事で恐ろしくなったそうです。原発の問題が進行中ですから、何をしても国から止められるので、復旧・復興作業もできない。将来の希望を持っている市町村と、希望の持てない市町村では、これほどの違いがあるのかと実感したそうです。ガイガーカウンターを持っていかなかったので、どれくらいの汚染地域なのかは分からなかったという話でした。

もう一人、東京フォーラムの会員さんも大勢の仲間と一緒に被災地に支援に行かれていました。赤十字という組織を通すと、なかなか必要な人の所に必要なものが届かないとい

うことで、自分達の手で支援活動をしたいと考えて、仙台の高校と連携をとって、生徒さんたちに避難所を回って必要なものを聞いてもらったそうです。夜眠れない・寒い・布団がないという情報が多かったので、寝袋を沢山集めて持って行ったそうです。

支援活動は人それぞれで違うと思いますが、日本人全体の心の中に何らかの支援をしなければいけないという氣持ちの火が灯った。そして行動した。日本人もなかなか捨てたものではないなと実感を持ちました。

今日の論語

では、論語の解説を致します。

【三十三】　子曰く、聖と仁との若きは、則ち吾 豈 敢てせんや。抑も之を為して厭わず、人を誨えて倦まざるは、則ち爾云うと謂うべきのみと。公西華 曰く、正に 唯 弟子 学ぶこと能わざるなりと。

孔子が言うには、聖人と仁人は私にはとても及びもつかないレベルである。しかしながら弛まず学んで実行し、人様を教えて飽きずにずっと続けることは、私は出来るといってよいだろう。

それを聞いて弟子の公西華が、「それこそ私たち弟子には真似の出来ないことです」と言った。

先日、或る大型スーパーの株主総会に行きました。毎年行っているのですが、今年は変わったと感じました。株主の質問に対して壇上に出て回答する際に、礼をしない。特に上席の役員は頭を下げませんでした。総会屋らしき人は一人もいませんでしたし、おとなしい羊の群れのような株主ばかりになっていました。出来レースのような質問ばかりでしたし、、これからなりふり構わず売上げを上げて行くという姿勢で、高飛車な印象を受けました。

「人を教えて倦まざる」という部分をちょっと読み替えて、そのスーパーは会社を大きく膨らませていくことには飽きずに休まずどんどんやっていく会社だと思ってしまいました。

【三十四】　子の疾 病なり。子路 禱らんことを請う。子曰く、諸れ有りやと。子路 対えて曰く、之れ有り。誄に曰く、爾 を 上 下の神祇に禱ると。子曰く、丘 の禱ること久しと。

孔子が病気になって危篤状態のように子路からは見えた。子路が病気の平癒を鬼神に祈ろうと決めて、孔子に許しを請うた。

孔子が「祈る理由があるか」と聞きました。

子路が、「あります。君主から死者に対して贈る追悼の辞にも、『天地の神様にお祈りする』と書いてありますから、孔先生も病気平癒を祈っておかしくはないと思います」と答えました。

孔子が「私は日頃からずっと祈り続けているから、今さら改めて祈ることはない」と言いました。

死ぬ時は従容として死につく。自分自身の死は天命によって決められているから、鬼神に祈るくらいで変わったりしないという凄まじい覚悟を感じます。

最近は死を真向から受け入れる人が大分増えてきたと感じます。先日亡くなった田中好子さんもそうですね。死に直面した時にどういう行動をとるかは、相当大変なことだと思います。

ちなみに、孔子は74歳で亡くなりました。子路は孔子よりも前の年に亡くなっています。反乱で命を落としたのですが、子路の遺体は刻まれて塩辛にされました。それを聞いた孔子は自分の家にあった塩辛の甕を割って、二度と塩辛を食べなかったという話が残っています。それくらい結びつきが強かったわけです。

【三十五】　子曰く、奢なれば則ち不孫なり。倹なれば則ち固なり。其の不孫ならん与りは寧ろ固なれ。

贅沢な人間は、礼に従わないでわがままである。倹約家は慎ましいけれども、かたくなで上品ではない。わがままよりは、むしろ上品でない方が良い。

【三十六】　子曰く、君子は坦かに蕩蕩たり。小人は長えに戚戚たり。

君子というものは、安らかで伸び伸びしている。小人はいつでもこせこせ動いている。

あまりこせこせした対応はしないで、ゆったり構えてゆったり動く方がよいということです。

【三十七】　子、温にして厲しく、威ありて猛からず、恭にして安し。

孔子は穏やかで厳しい。威厳があるけれども荒々しくない。慎み深く堅苦しくない。こういう人物である。

私たちもこういう性格、こういう行動を目指すのがよいだろうと感じます。自分自身を振り返ってみて、さて如何でしょうか。

論語は何を語っているかがある程度みえたらば、現代に置き換えて、自分自身の行動に置き換えてみる。自分が何をするか何をしたか、自分自身に置き換えて論語を活用するとよろしいでしょう。

これからの日本を生き抜くヒント

私が今年、新聞を読む時に氣にする点が三つあるとお話しています。民主党の打つ無様な手・自然災害・国債です。

民主党の無様な手については、新聞やテレビで毎日これでもかというくらい流れています。それらについて自分ならどう考え・どう行動するか、菅さんの立場に自分自身を置き換えてみるとよろしい。民主党の中で最近、色々な動きが出てきました。菅首相の即刻退陣を求める論文を読売新聞に寄稿した西岡参議院議長であるとか、枝野官房長官の発表等をその立場になったつもりで考えてみるとよいでしょう。

やむにやまれぬエネルギーが民主党の中にかなり溜まってきていると感じます。ただ日本人の感性として、大震災が起きて、その真っ只中にトップを代えるのはよくないという考え方がありますので、菅さんは生き延びている部分がかなりあると思っています。他にも、内閣総理大臣に一度なってしまうと、自分で辞めようと思わない限り辞めさせられないのです。辞めたくない人間を引きずりおろすことは、日本人にはなかなか出来ない。そうしている間に、日本の政治・経済はどんどん悪化していきます。

今回の原発事故で起きた被害を、政府はどう見ても東電に押し付けようとしているとしか見えません。「政府が責任をとる」とは言っていますが、及び腰で言っているようにしかみえない。今の日本政府は、外国から見ると甚だ心もとない政府だと映っていると思います。

自然災害について申します。今朝の新聞に、＜震災で危険な宅地が全国で 1432 箇所＞という記事がありました。小さな囲み記事ですが、地すべりが起きそうな山の斜面や宅地で

危険だと思われる所が載っていました。自分の住んでいる所はどうか、確認されるとよいでしょう。ちなみに群馬県は、宅地で危険だと思われる所は 24 箇所、斜面は０です。いくらなんでも０箇所はないと思いますが…。こういうものを読み過ごさないで、自分に関係あるところはどこか考えて戴きたいと思います。更にもう一歩進めて、古地図で自分の住んでいる所を調べてみる。沢や沼といった水に関係ある名前がついていたなら液状化現象が起きる危険性があるということですから、なかなか他の土地に引越しとはいかないでしょうが、注意することはできます。自然災害については、こういった小さな囲み記事からも掘り下げていく必要があります。

鳥の新型インフルエンザは、だんだん近づいてきているという実感を持っています。千葉県で 2 回、鳥の新型インフルエンザウィルスが発見されています。今年の後半は、新型インフルエンザに関する話が大分出てくるだろうと思っています。家の中に入る前に、外で手を洗えるような準備を今のうちにしておく必要があると思います。

国債は又、落ちています。今年の 1 月に格付けが上から 3 番目から 4 番目に落ちて、更に落ちるというシグナルが出ています。国債がこれからますます落ちていくと、日本は信用できない国というメッセージが世界に広がって、国債が暴落する。そうすると日本ではハイパーインフレが起きて、経済が大混乱に陥ります。例えばコーヒー１杯 300 円で飲めたのが、翌日になると 600 円、その夜には 1000 円となって、10 日もすると手の届かない金額になる。ものがあってもお金が足りないから買えない状態になる。

国債の格付けが落ちて国債が暴落することによって、日本の国は社会・経済が大混乱し、凄まじい悪化をする。その引き金になるのが国債ですから、注意して見ていればその始まりが見えてくるであろうと思います。ただ今年はまだ、そこまで行かないと思います。今年、来年あたりまでは、ぐずぐずともっている。再来年あたりはきついと思います。

日本の国の今の流れからいくと、民主党は政権を手放さないでしょうから、解散総選挙をしない限り民主党政権が続いていく。そうすると日本国中に白蟻がはびこっていく状況になると思います。日本の国を支えている柱が、今はどうにか礎石の上に乗っている状態ですが、来年は白蟻にどんどん食い尽くされるでしょう。民主党が白蟻に良い環境を作っていきますから、どんどん柱が無くなってくる。色々な条件が重なってくると、自然災害・国債の暴落・大震災といった悪いものが一挙に来ると思っています。普通で考えれば再来年だと思いますが、何かのきっかけで急に来る可能性もあります。

こういう状況の中で、生き抜いていくヒントとなるもの。日本には会社であれば社訓、

家庭には家訓というものがあります。今回の大震災は、古老の言い伝えで助かった地域がかなりあります。先ほど申しました普代村の堤防は、古老の言い伝えを村長さんが守った。少し北にある野田村では、保育所の先生が園児を連れて避難場所まで逃げたけれども、「大地震が来たら源平坂に逃げろ！」という古老の言い伝えを思い出して、もっと高台にある源平坂に上って助かった。山田町の田の浜地区では、昭和津波の後に、高台に 12000 坪の土地を用意して 240 戸が移転をした。移転した 240 戸は、今回の津波の被害を免れました。

皆さんもご自分の会社の社訓や家訓、言い伝えをよく見直してみる必要があると思います。その会社や家庭、地域に良いものが残っているはずですから、それを活かせばよい。もし無ければ、これから一所懸命考えて自分の手で作ればよいと思います。今はそういうものを考えるのに、一番良い時期に来ていると思います。人の話はあてになりません。自分の身体で感じた話が一番良い。自分の体験で見つけ出すとよいと思います。そこで使えるものが知識・見識・胆識です。

東日本大震災を考える

今回の東日本大震災を知識・見識・胆識でみます。大震災に関して色々な知識が沢山入って来たと思います。それを、この話はよい・この話はおかしいといった具合に自分の考えで振り分ける。直観を大事にすることです。知識をよく振分けていって、自分ならどうすると決める。知識を集約して自分の考えをまとめるのが見識です。そしてそれを実行するのが胆識です。

知識・見識・胆識を現実のものに活かし、自分自身のものにする。それには今ほど良いチャンスはないと思っています。先ほどの普代村の堤防にしても、村長さんが周りの反対を押し切って 15.5 メートルの堤防を作った。これは胆識があったからです。似たような話は三陸沿岸に結構あります。学校の避難路を、遠回りしなくても逃げられるように、校舎の裏手の急斜面に階段を作った市会議員さんもいました。自分の遺言だからと言って強行に議会を通して作ったそうです。その階段が見事に活きて、生徒さんたちは助かった。

今が自分自身を鍛え、知識・見識・胆識を取り入れる良いチャンスです。それには新聞を丹念に読んで、自分自身に置き換えて考える。是非活かして下さい。

以上で本日の講話は終了です。